

## 令和4年度 港南区区民意識調査 結果報告

港南区役所では、区民の皆さまの生活環境に対する意識等を把握し、今後の区政運営に役立てることを目的に、区民意識調査を令和4年5月に実施しました。前回調査を令和元年(2019年)5月に実施して以降、3年振りとなる今回は、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛や地域活動などへの影響を受けた中での調査となりました。

この度、調査結果がまとまりましたので、お知らせします。当調査結果は、自治会町内会をはじめとした地域の皆さまと共有し、「協働による地域づくり」に生かしてまいります。

### ◇調査の概要◇

調査対象：港南区区内にお住まいの18歳以上の方4,000人(40人の外国籍区民含む)

抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出

回収数等：2,009票(回収率50.2%)

調査期間：令和4年5月18日～6月20日

調査方法：郵送による配布・回収 ※回収は電子申請・届出サービスも併用

### ◆調査結果のポイント◆

#### ・港南区に住み続けたいと思っている方は80%

前回調査(令和元年度)に続き、「住み続けたい」と「やや住み続けたい」の回答の合計が80%に上り、多くの方に暮らしやすいと感じていただいています。

#### ・家庭における災害への準備意識は着実に向上

「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している(69%)」、「食料や飲み物を備蓄している(66%)」など、災害に備えた準備は、前回調査と比べると、ほぼすべての項目で増加又は同等となりました。特に「非常用トイレの準備」は7%増加しました。

#### ・新型コロナウイルス感染症の影響等により地域活動への参加は減少

この1～2年の間に行った活動については、前回調査と比べると、すべての項目で減少又は同等でした。

地域活動への参加自粛や地域活動の中止・縮小が影響していると推察されます。

また、重要度が高いと考える活動については、「地域の交通安全や防災訓練・防犯パトロールなどの活動」、「近所の高齢者や障害者の見守りや手助け」、「近所の子どもの見守りや声かけ」が上位となり、地域の安全や助け合いなどの地域活動が期待されています。

#### ・スマートフォンは約9割の方が所持

87%の方がスマートフォンを持っているという結果となりました。年代別では、10～60歳代で90%を超え、10～30歳代では99%という結果となりました。70歳代は80%、80歳以上は50%でした。

調査結果報告書は、区ホームページや区役所、地区センター、地域ケアプラザ、コミュニティハウスにてご覧いただけます。

【区民意識調査 URL】<https://www.city.yokohama.lg.jp/konan/kusei/tokei/ishiki.html>



港南区区民意識調査

検索

お問合せ先

港南区区政推進課長

高岡 昭人

Tel 045-847-8320

令和4年度

# 港南区区民意識調査結果

(概要版)

港南区役所では、区民の皆様のご意見を活かした区政運営を進めるため、区民意識調査を3年に一度実施しています。

今回は、前回調査を令和元年(2019年)5月に実施して以降、令和2年(2020年)明けから世界規模で流行し始めた新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛、地域活動などへの影響を受けた中での調査になりました。調査項目としては、新たにスマートフォンの利用状況等をお尋ねし、多くの区民の皆様からご回答をいただきました。

## 調査概要

- 調査対象：港南区区内にお住まいの18歳以上の方4,000人(40人の外国籍区民含む)
- 抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
- 回収数等：2,009票(回収率50.2%)
- 調査期間：令和4年5月18日～6月20日
- 調査方法：郵送による配布・回収 ※回収は電子申請・届出システムも併用

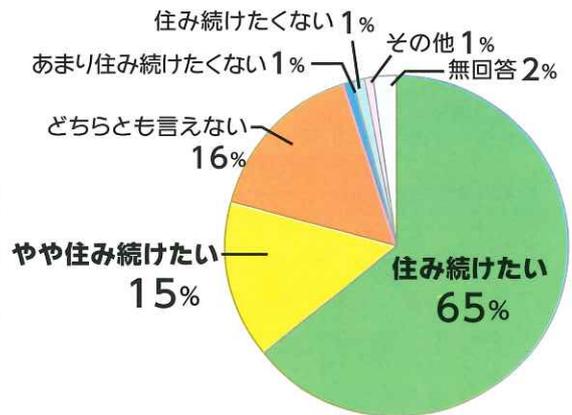
## 1 定住意向

### 港南区に住み続けたいと思っている方は8割

前回調査(令和元年度)に続き、「住み続けたい」と「やや住み続けたい」の回答の合計が80%に上り、多くの方に暮らしやすいと感じていただいています。

F11

これからも港南区に住み続けたいと思いますか?



## コラム お住まいの地域の生活環境について

お住まいの地域の生活環境に対する調査では、皆様の日常生活の満足度を測るため、「まちなみ・環境」「福祉・保健」「教育・文化」「生活」の分野について、お尋ねしています。

前回調査と比較して、「まちなみ・環境」「福祉・保健」で「そう思う」「どちらかというと思う」の回答の割合は増加または同等でしたが、「教育・文化」のイベントや講座、「生活」の防犯対策等の項目は減少しました。

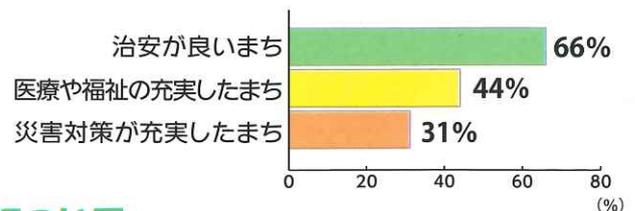
## 2 区の将来像

### 区民が望むのは安全・安心に暮らせるまちづくり

問22 港南区が将来に向けて、どのような方向に発展していくことが望ましいと思いますか?(3つまで:複数回答)

区の将来像の上位3項目は平成23年度調査以降から今回まで変化がありません。

多くの方が港南区に「住み続けたい」と考えていることもあり、安全・安心に暮らせるまちづくりを求めている声が多く寄せられました。



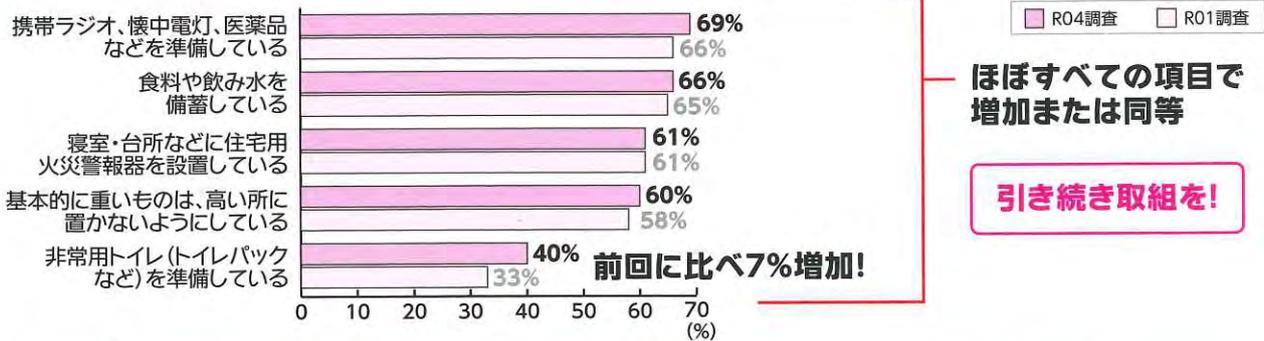
## コラム 関心のある・充実させてほしい情報について

区役所から発信される情報のうち、関心のある情報や充実させてほしい情報は「防災・防犯に関する情報」が前回比+11%となる67%で最多となり、安全・安心に暮らせるまちへの関心が高まっていることが読み取れます。

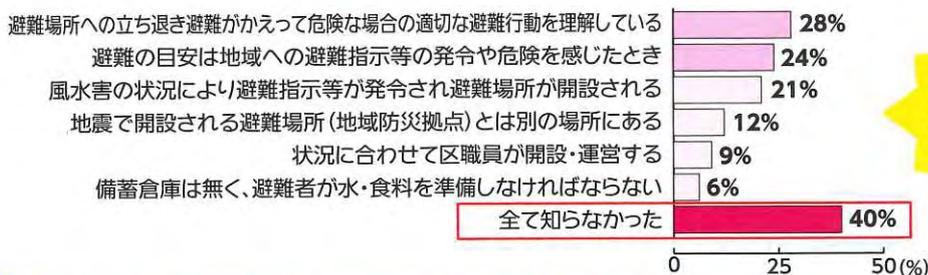
続いて、健康・医療に関する情報(54%)、福祉サービスに関する情報(40%)となりました。

## 家庭における災害への準備意識は着実に向上

問2 あなたの家では、災害に備えて、どのような対策を取っていますか？(複数回答)



問5-2 大雨・洪水・台風で開設される避難場所について知っていますか？(複数回答)



### コラム 震災時と風水害時の避難先の違いについて

市内で震度5強以上の地震を観測した場合、地域主体の運営委員会が中心となり市内の小・中学校に避難所(地域防災拠点)を開設します。一方、風水害時は気象状況により避難指示等が発令された際(可能性があるとき)に、状況に合わせて区職員が地区センターなどの避難場所を開設しますので、区からのお知らせにご注意ください。マイ・タイムラインを活用し、避難の目安を確認しましょう。なお、風水害避難場所には水・食料が無いため自宅からご持参ください。

港南区 地震 避難場所

検索

港南区 大雨 避難場所

検索

## がん検診の受診率は45%

問9 あなたは令和元年度から令和3年度にがん検診を受けましたか？

がん検診の受診率については、前回から2%増加し、平成29年から増加傾向にあります。

また、80歳以上を除く全ての世代で、男性に比べて女性の受診率が上回っており、女性の方のがん検診への関心が高い傾向にあります。



### コラム がん検診について

がんは長い間、脳血管疾患、心臓病とともに、三大死因の一角を占めており、生涯、2人に1人は何らかのがんになるとも言われています。

がん検診のメリットには早期発見・早期治療によるがん死亡率の減少が挙げられます。

がんの早期発見のためには、「症状が出てから」ではなく「症状が出るより前」に検査を受ける必要があります。最近では、コロナ禍による受診控えが見られますが、がん検診は不要不急のものではありません。症状が出ていないからといって油断をせず、定期的ながん検診を受けることが大切です。

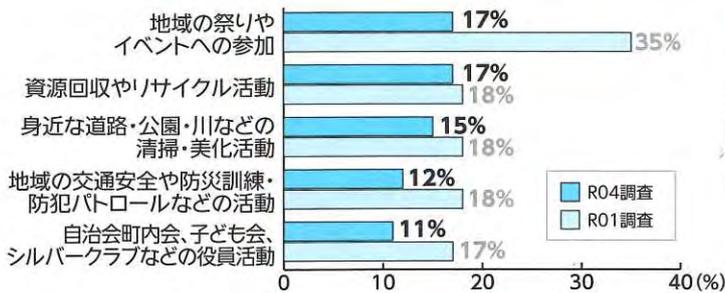
横浜市がん検診

検索



## 地域活動への参加は減少

問10ア お住まいの地域で、この1~2年の間に行った活動は何ですか？(複数回答)

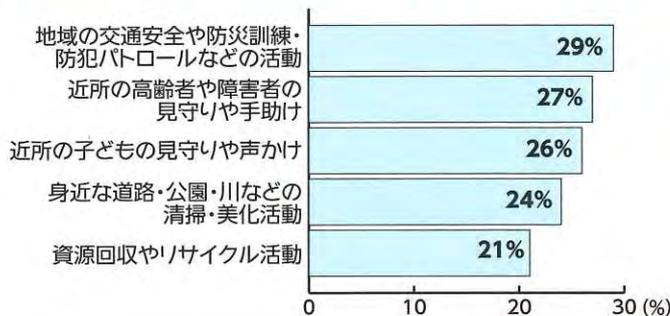


この1~2年の間に行った活動については、前回調査と比べると、すべての項目で減少または同等となりました。

一方、重要度が高いと考える活動については、参加経験を上回る項目が多く、地域活動の役割が期待されています。

問10ウ

今後、地域の中でより充実させていくべき、重要度が高いと考える活動は何ですか？(複数回答)



ハチマン 83太郎

### コラム 港南ひまわり83運動について

港南ひまわり83運動は、「散歩や庭先の掃除、買い物など外での用事を、小学生が登下校する時間帯(8時と3時)を目安にしましょう」という活動で、地域の見守りとして広がっています。

港南ひまわり83運動

検索

## 食品ロス削減の取組は大幅に増加

食品ロス削減の取組については、約7割の方が上位3項目に取り組んでいることが分かりました。

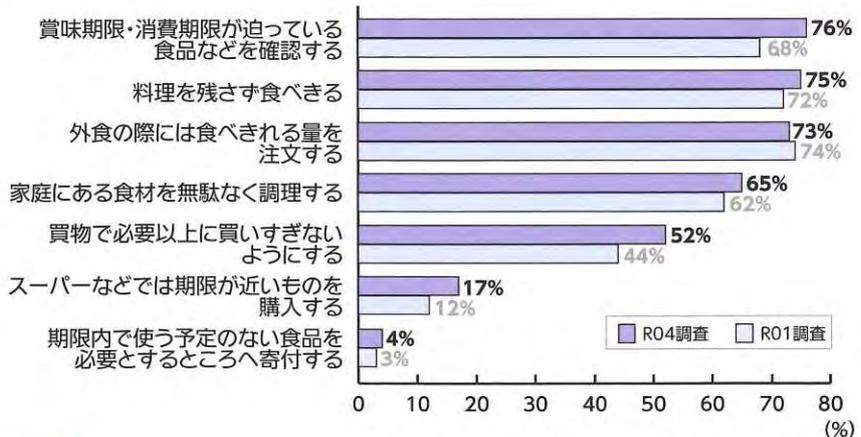
また、前回調査と比較して、全7項目中6項目が増加しました。特に、買い物で取り組める項目は大幅に増加しました。

賞味期限  
2023年0月0日



問16

食品ロス削減の取組のうち、現在行っているものは何ですか？(複数回答)



### コラム フードドライブについて

フードドライブ活動とは、食品を必要としている人へ支援を行い、食品を通じ地域や企業がつながる【接続可能な食の循環】の取組です。各家庭の未使用食品(賞味期限が2か月以上・常温保存可能なもの)を持ち寄り、フードバンク団体や地域の福祉施設などで活用します。港南区役所54番窓口で未使用食品を受け付けています。

横浜市フードドライブ

検索



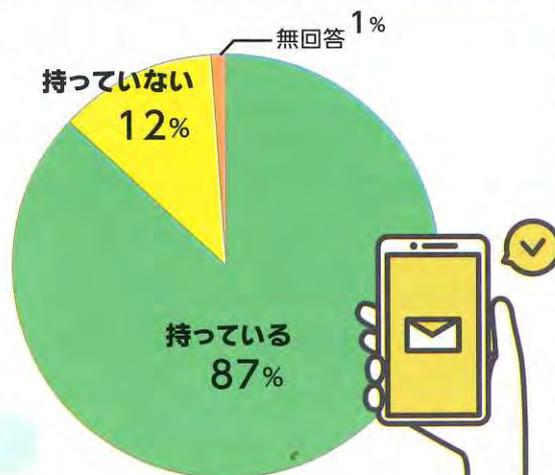
へら星人  
ミーオ

「ヨコハマ3R夢」  
マスコットイーオ

## スマートフォンは約9割が所有!

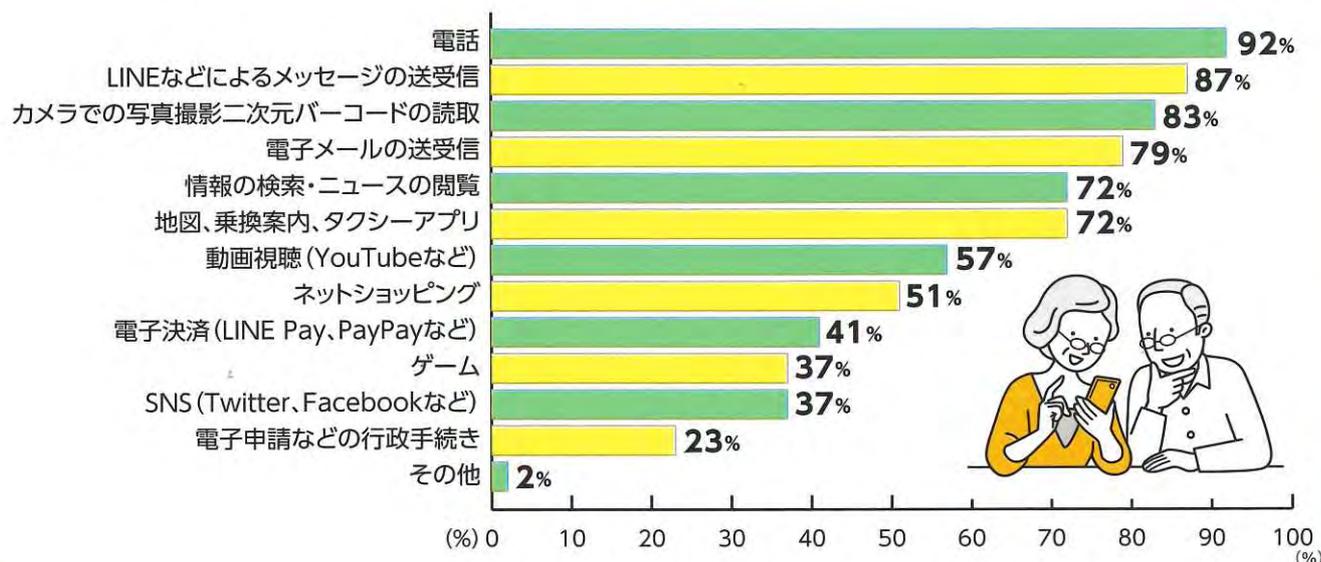
## 問18 あなたは、スマートフォンをお持ちですか?

スマートフォンの所有率は、87%の方が持っているという結果となりました。年代別では、10～60歳代で90%を超え、10～30歳代は99%という結果となりました。70歳代は80%、80歳以上は50%と過半数になっています。



## 問18-2 スマートフォンのどのような機能を使っていますか?

「電話」は全ての年代で使用されています。全体的に年代が上がるにつれて、使用機能は減少傾向です。特に「動画視聴 (YouTubeなど)」や「SNS (Twitter、Facebookなど)」は、10～20歳代と70歳代以上では他の項目と比べ差が大きくなっています。



## コラム DX戦略について

横浜市では、横浜DX戦略を策定し全庁的にDXの推進を図っています。その中で、港南区はデジタル区役所モデル区として選定されており、区役所として積極的にデジタル化を進めています。

実際に、港南区では行政手続等のスマートフォン等からの申請や窓口の予約などの取組を始めています。

また、スマートフォンに不慣れな方に向けた教室の実施などについても取り組んでおり、誰一人取り残さないデジタル化の実現を目指します。

横浜DX戦略

検索



● 詳細な報告書は、区ホームページや区役所、地区センター、地域ケアプラザ、コミュニティハウスにてご覧いただけます。

【区民意識調査URL】 <https://www.city.yokohama.lg.jp/konan/kusei/tokei/ishiki.html>

● 小数点以下を四捨五入しているため、グラフの合計が100%にならない場合があります。

発行日: 令和5年1月

発行: 港南区総務部 区政推進課企画調整係 〒233-0003 横浜市港南区港南四丁目2番10号

電話: 045-847-8328 FAX: 045-841-7030



区民意識調査

# 令和4年度 学び舎ひまわり第4講 開催報告

日時 令和4年 11月12日(土) 13時~16時  
会場 区役所6階 601・602号 会議室  
受講生 20名(地域11名 企業2名 区役所7名)

## プログラム内容

自分の地域で実現させたい計画「マイプラン」。興味のあること、今地域で起こっている様々なことを考慮して作成したマイプランを、受講生同士のグループ内で発表、様々な意見を踏まえてブラッシュアップし、思いのこもったものとなりました。

日頃の活動についても情報交換が進み、大変有意義な時間となりました。

## Aグループ

連合名、所属名	氏名	タイトル(11月12日現在)
上大岡	山田 和男	「日野南小地域防災拠点運営委員」の取り組みに学ぶ
野庭住宅	田中 太郎	心の扉を開いて
日野南	柳 あけみ	世代をこえてみんなで助け合おう
区役所 こども家庭支援課	山岡 佐江子	楽しく多世代交流! in 野庭団地
区役所 総務課	桂 正紹	地域の大広間をつくる



## 内海先生のコメント

子供から高齢者、あるいは外国人など、多様な方々が横に繋がりながら意思疎通をして災害時につなげようということがテーマとして全体に流れていました。多世代、特に子供たちを巻き込むという場合でも、企画から全て大人が行ってしまうのではなく、企画段階から子供たちを交えた形を取ると、やる気がより高まります。

また、拠点を持つことで地域の情報流通がスムーズに流れます。地域の居場所があること自体が、災害時に非常に有効です。

## Bグループ

連合名、所属名	氏名	タイトル（11月12日現在）
日野第一	大野 千賀子	我が地域（町内会）を良く知ろう！
下永谷	浅野 利幸	何とかしたい！震災時の初期対応スピード
港南区工業会	稲村 直之	めざせ頼れる地域密着企業
区役所 生活支援課	三小田 晃児	独自通貨で世代間交差
区役所 保険年金課	飯田 啓晶	あいさつで溢れるまち



### 内海先生のコメント

高齢化が進んだ現在、防災の中でもとりわけ災害時要援護者が大きなテーマになっており、その中でも安否確認が重要であるという認識が広がってきています。

また、「独自通貨で地域活性化」は面白いアイデアで夢があります。報酬制のイベント展開をするなど、新しい考え方を取り入れるのも良いかもしれません。

## Cグループ

連合名、所属名	氏名	タイトル（11月12日現在）
港南台	和田 政春	愛される自治会へ
永谷	大嶋 武夫	家族全員で楽しみ近隣家族との交流を図り 活気ある地域作り
横浜商工会議所 南部支部	笠原 節夫	みんなでお店やりませんか？
区役所 地域振興課	福司 英帆	みんなのマイ・ホームタウン日下
区役所 税務課	栗竹 史明	グリーンスローモビリティを活用した移動手手段の確保



### 内海先生のコメント

地域への愛着を深めてもらうという視点での取組は大切です。

山坂など起伏のある地形での移動手段は、横浜全体でも大きな課題になっています。また、役員だけでイベントをすることが難しくなっている中、手上げ方式で新しく人を集めて関心や興味を持つ人に地域活動を担ってもらうという事は、非常に大切です。

### Dグループ

連合名、所属名	氏名	タイトル (11月12日現在)
笹下	小船 博之	地域内の情報弱者をなくす
永野	奥嶋 敬司	ICTを活用した自治会業務の効率化
野庭団地	中川 正彦	高齢化が進む中で自治会の取組と活動を見直そう
芹が谷	狩俣 努	若い世代の取り込み大作戦
区役所 税務課	櫻井 正成	地域でつながり、愛着を持とう！



### 内海先生のコメント

担い手の問題は、学び舎ひまわり開校当時の大きなテーマです。働き盛りの若い人が地域の担い手になりにくい状況がずっと続いています。しかし、コロナ禍でICT化が進むなど環境が変わってきていることもあり、そこに対応しようという内容だと思いました。具体的に考えてみる価値はあります。

また、取組みに対して補助金が出る場合もあるので、検討してみたらよいと思います。

## 学びのまとめ 集計結果

回答数 19件 / 回収率 95%

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
15	4	0	0	0
79%	21%	0%	0%	0%

### 受講生の声 (抜粋)

- ◎グループ活動の中で、近隣の地区での様々な活動を知ることができた。
- ◎グループ内で色々な意見を聞いたことで、自分の中で漠然とした考えが少しまとまってきたように感じた。これからもっと煮詰めていきたい。
- ◎ICTについて、進んでいる地域の事例を共有してすすめてもらえれば有難い。
- ◎自分のプランに対し、良いアドバイスをもらった。
- ◎様々なプランが提案されたが、「住民同士のつながり」を育むことを目的にしていることが共通していると感じた。
- ◎各自のプラン発表で、皆さんが一生懸命地域の発展に尽力する力が印象的でした。
- ◎話をする中で、皆の想いは一緒であることを再確認した。

# 令和4年度 学び舎ひまわり 第5講 開催報告

日 時：令和4年12月10日（土） 14時 ～ 16時

会 場：区役所6階 603号 会議室

受講生：23名（地域14名、企業1名、区役所8名）

## 卒業発表～マイプランの披露



小船 博之  
笹下地区

### 地域内の情報弱者をなくす

地域内での情報共有は非常に重要である。使っているコミュニケーションツールは世代によって違うため、発信の手法を使い分け、「全員にもれなく伝える」ことが必要。その結果、新たな担い手も掘り起こすことができる。

情報の取扱いが多様化する中で、変化しながら「リアル・紙」と「ネット・WEB」のハイブリットで「わかる」地域活動を目指していきたい。



和田 政春  
港南台地区

### 理想の自治会活動をめざして

自治会活動の活性化については、みんなが楽しく参加できるという事が理想。そのためにいかに仲間意識を持って活動するかが重要。地域活動は、実際に集まってみんなでやると楽しくなる。

現状を分析して、不十分なこと、まだ出来ていないことに取り組んで、もっと仲間を増やしていきたい。



稲村 直之  
港南区工業会

### めざせ頼れる地域密着型企业

地元企業、特に工業会会員企業が住民のみなさん、行政と連携し、港南区の活性化と発展に貢献できるようにしたい。

「この地域にこの会社があつてよかった」と思ってもらえる企業を目指したい。そのためには、日頃の関係づくりや企業の持つノウハウの提供、万が一の災害時には避難場所になったり資材を提供したり等、色々と考えられることがある。

まずは、港南区工業会の認知度を上げる努力を続けていきたい。



田中 太郎  
野庭住宅地区

### Open my mind～最初は自分自身から～

地域には様々な方が住んでいるが、各々が交流する場所が不足していると感じる。

地域にとって重要なのは人と人の絆である。気軽に会話する場所が必要であり、そこで自分からコミュニケーションしていかないと成立しない。

まずは自分が、誰とでも同じように関わる気持ちを持つと思う。それが広がっていくことで誰もが主役になり、人種、性別、世代、文化などの違いを簡単にカテゴリ分けせず、誰でも安心して楽しく暮らせるまちが実現できる。



浅野 利幸  
下永谷地区

### 何とかしたい！震災時の初期対応スピード

防災の行動主体は「自助」だが、震災直後の「共助」の対応の差が被災による損害・損失に大きく影響する。そのため、近隣の助け合いによりスピード対応が図れれば、減災にもつながる。

実際に発災した時を想定し、本当に機能する仕組みを作る必要がある。初動の見直し、組織として迅速に機能するための仕組みづくりを中心に取り組む。

助け合いで乗り切る、減災力の高い地域を目指していきたい。



【職員】  
三小田 晃児  
下永谷地区担当

### 地域通貨で世代間交差

地域通貨を導入し、ボランティア活動等を報酬制として、イベント等で活用することにより、異なる世代が交わる接点を作れるのではないかと考えた。

ボランティア等の担い手不足が課題である中、子どもたちが興味を持ちそうな地域通貨をツールとして活用し、親世代も巻き込んで、地域を知る機会の増加や新たなボランティア層の獲得につなげる。

### 内海先生のコメント



この数年間、コロナ感染症の影響で集まりがなかなか持てませんでした。今年度はリアルな話し合いが進められたことで、各々のマイプランについてより深め合うことができ、完成されたものになりました。

地域は時代と共に変化していくもので、多様化していく流れについていかななくてはなりません。そのための知恵を絞った素晴らしい提案が沢山ありました。また、普遍的な地域課題に対する提案もありました。

物事の動きには、興味関心がある事を意欲的に行う人がいるかないかが大きく関係してきます。仲間づくりをし、楽しく活動することが重要です。

今年度から企業の方が参加したのは大きなトピックスです。色々な形で地域と協働していければ新しいモデルができ、様々な事業に広がっていくという可能性を感じます。

色々な取組をしていただき、それを発信することで、他の地域にも広げていただけると良いと思います。

## 受講生による「ひとこと振り返り」

地区	氏名	感想
上大岡	山田 和男	卒業発表を参考として、今ある自分の役を務めていきたい。
日野第一	大野 千賀子	今後の町内会での地域づくりに役立てていきたい。
港南台	齊藤 由美	自分の地域のことを見直す良い機会となった。
永野	奥嶋 敬司	自分が楽しむことが活動を盛り上げることに繋がると改めて感じた。
野庭団地	中川 正彦	いい経験をした。今後の活動の参考にしたい。
野庭団地	丸山 耕輔	顔見知りが増えて楽しかった。
永谷	大嶋 武夫	楽しく過ごすことができた。これで終わらずに今後もつながりを活かしていきたい。
芹が谷	狩俣 努	皆同じようなことで困っていることが分かった。地域を盛り上げていきたい。
日野南	柳 あけみ	他地域や、区役所の人と話が出来て良かった。機会があればまた一緒にしたい。
笹下地区担当	櫻井 正成【職員】	あつという間だった。刺激を持ち帰って仕事に活かしたい。
日下地区担当	福司 英帆【職員】	普段の業務と違い、地域の人と話すことができて良かった。
日野地区担当	鈴田 勇氣【職員】	「自分の住んでいる地域が好き」という気持ちが動く力を大きくすると感じた。
野庭団地地区担当	山岡 佐江子【職員】	たくさんの新しい視点をもらう事が出来てワクワクした。
野庭住宅地区担当	桂 正紹【職員】	地域の色々な面を見ることができて良かった。
永谷地区担当	飯田 啓晶【職員】	地域の人と色々と話げできた。今後の業務に活かしていきたい。
芹が谷地区担当	竹森 庸陽【職員】	区役所と地域の力をあわせて、区を活性化していきたい。

### 荻久保副校長のお話



マイプランの作成は大変だったと思いますが、自分の地域をより良くしようという気持ちがこもったものになっていると思います。

10期生みんなで話し合いながらマイプランに取り組んでいてもらえたらと思います。そのためにはお互いに理解することも大切です。コミュニケーションを取って、実現に向けて頑張ってください。

### 栗原副校長のお話



学び舎ひまわりは、港南区が大切にしている「協働による地域づくり」の中核を成すものです。10年目になる今年から、企業の方にも輪に加わっていただきました。

地域の皆さん、企業の皆さん、職員の皆さんに、それぞれの立場で地域への思いがこもったマイプランを作っていただきました。

これからも皆さんと協働による地域づくりを進めていけたらと思います。

### 古屋校長のお話



ご卒業おめでとうございます。  
今年もコロナ禍ではありましたが、4年ぶりに全ての講座を無事に行うことが出来、大変嬉しく思っています。

先程のマイプランの発表を聞き、皆さんが地域の様々な課題に真摯に向かい合っていることを、大変頼もしく感じました。皆さんが作ったマイプランを、自分の地域や企業に持ち帰り、今後の活動に活かすとともに、マイプラン実施に向け、自治会の会長や、役員に話してもらいたいです。皆さんが提案された内容は、連合が抱えている課題ばかりです。皆さんが考えたマイプランを、私たちも大切にしていきたいと思っています。

私は、人との出会いにより、とても成長させてもらいました。学び舎ひまわりでの出会いも大切に活動していただきたいと思います。

### 高森名誉校長のお話



ご卒業おめでとうございます。

学び舎ひまわりは、今年度10周年を迎え、地域卒の卒業生は、208名になります。その多くの方が、地域活動のリーダーとして活躍しています。設立当初、期待していたことが、着実に実現しています。

近年、自治会町内会を基盤とする「地域」の役割が、より一層重要になっています。地域でできることは、まず自分たちで協力してやる。そして、できない部分を行政に担ってもらう。行政は地域のパートナーとして一緒に取り組んでもらうという「協働による地域づくり」が大切だと思います。

本日、学び舎ひまわりをご卒業される皆さんには、これからの地域活動において、この「協働」を活かしていただき、次代を担う子どもたちに、「ふるさと港南」を引き継いでいけるよう、ご活躍していただくことを期待しています。

### 卒業生代表のあいさつ（大久保最戸地区 吉田とも子さん）



学び舎ひまわりの10期生として、本日卒業することになりました。5回の講義で、それぞれ興味深い話が聞け、大変勉強になりました。中でも一番印象に残ったのは、ささげ祭りの見学でした。

ここで学んだ結果をヒントとして、自分なりに地域活動に貢献できたらと考えています。マイプランの「花と笑顔があふれるわがまち!!」が現実になるよう、少しでもアクションを起こしていきたいです。



卒業おめでとうございます！

### 学びのまとめ 集計結果

回答数 23件 / 回収率 100%

満足	やや満足	やや不満	不満
22件	1件	0件	0件
9.6%	4%	0%	0%

#### 【受講生の主な意見】

- ・ 地域課題は様々であり、難しい問題もあると改めて感じた。しかし、少しの努力で実現可能なものも沢山あることにも気づかされた。
- ・ 発表されたプランそれぞれが素晴らしく、参考になった。
- ・ 他の人のプランの中に自分もやってみたいと感じたものがあり、これから取り組んでいきたい。
- ・ 自分の地域でこれから取り組もうと考えていたテーマが発表の中にあり、非常に参考になった。
- ・ 自分の身近なことに目を向けて考えていければと感じた。
- ・ 一人ではできなくても、仲間がいれば実現できると感じた。
- ・ 自分の地域をさらに成長させるための課題を発見することができた。
- ・ みんな同じようなことで悩んでおり、今後も地域を超えて考えていければと思った。
- ・ スキルアップした事例の共有が全体のレベルアップになると考えた。
- ・ 受講を通じて知り合いができ、今後意見交換が出来るようになった。
- ・ これで終わりではなく、ここからスタートという心意気で取り組んでいきたい。
- ・ この講座が区役所職員や企業を巻き込んでいた点は、大変良いと思った。

令和4年度 第2回港南区協働による地域づくり推進協議会  
 令和4年度 第2回港南区地域福祉保健推進協議会  
 開催報告

日 時	令和4年11月17日(木) 午前10時から正午まで
場 所	港南区役所6階 601・602 会議室
出席者	<p>●★古屋委員、★荻久保委員、★杉山委員、若林委員、石川(正二)委員、石川(彰子)委員、小箆委員、塩田委員、小松委員、本間委員、須田委員、★池袋副会長、竹林委員、川辺委員、田川委員(代理出席:星氏)、池田委員、堀委員、早坂委員、長堀委員、村野委員(代理出席:石倉氏)、櫻井委員、●栗原委員</p> <p>-----</p> <p>●港南区協働による地域づくり推進協議会 会長、★同副会長                  ●港南区地域福祉保健推進協議会 会長、★同副会長</p>
事務局	港南区役所、港南区社会福祉協議会事務局
議 題	地域で支える精神医療の実現に向けて(講師による講話と意見交換)

【協働による地域づくり推進協議会の概要】

区内の地域活動者や団体が、自治会町内会など身近な地域の中で連携できる関係を築き、地域での活動をより一層進めていくために、区内で活動する各団体の代表者と区役所が一緒に話し合い、情報を交換する場として、平成26年度から設置しています。

【地域福祉保健推進協議会の概要】

保健・医療関係団体や福祉関係団体等が集まって、港南区の保健・医療・福祉等の連携強化を図り、地域における総合的な福祉保健サービスを円滑に行うことを目的として設置しています。

◆合同開催の趣旨

これまで港南区では、障がい者理解のための様々な取組を行ってきました。地域には障がいのあるなしに関わらず多様な人が生活しており、より良い地域づくりを進めていくためにも、障がい者理解は欠かせない視点です。

障がいの中でも、精神障がいは他の人から理解してもらいにくいという側面があります。港南区には神奈川県立精神医療センターがあり、当該センターから講師を招いてお話を伺い、意見交換することは、大変有意義であると思われます。

また、港南区にはより良い地域づくりに向けて設置した「港南区協働による地域づくり推進協議会」と、港南区の保健・医療・福祉等の連携強化を図るため設置した「港南区地域福祉保健推進協議会」があります。障がい者の生活拠点の地域移行は、協働による地域づくりにおいても、今後さらに重要な視点となるため、両協議会を合同で開催し、効率的に意見交換します。

◆開会あいさつ 古屋 港南区連合町内会長連絡協議会会長



二つの協議会の委員が集まって、精神障がい者を取り巻く状況について専門家のお話を伺い、それぞれの立場から意見を交わすことで、障がい者理解を深め、また、それぞれが地域で何ができるかを考えていきましょう。

◆講師 神奈川県立精神医療センター 石田氏のお話



誰もが精神疾患になる可能性があります。また、地域の諸問題の背景には精神疾患が隠れている可能性があります。

精神病院は閉鎖された特殊な空間で侵襲性が高いため、国策として地域移行が進められています。地域移行を進めるためには、病院や医療のあり方を変えるとともに、支援者が関わり方を変え、地域の課題としてまちづくりを進めていく必要があります。支援者の皆さんの精神疾患に対する理解と、専門家との連携が欠かせません。

人と人がつながる街、地域で支える社会を目指して、まずは理解する、一人で抱え込まない、関わってみる、そういったことが大切です。



◆委員からの意見、感想【意見交換】(抜粋)

- 支援者が変われば相手も変わるという話が印象的だった。これは精神障害だけでなく、他の障害や障害がない人にも言える。支援者は専門家だけでなく地域の人みんな、と言える。
- どうしたら地域の中で障害者と活動できるようになるか、考えていきたい。
- 地域の中で何ができるか考えながら、できることを少しでも実行していくことが大事。
- 精神障害について専門知識がない中で対応することに難しさを感じている。
- 具体的にこういった支援をしたらよい、ということが地域内で共有されると、支援の輪が広がると思った。
- 障害者の方の地域活動の場として、商店街のイベントを活用してもらおう等、つながれたらと思う。
- 地域の中で困りごとを抱える人として、身体障害者はすぐに思い浮かぶが、精神障害者まで意識できていなかった。精神障害者への理解を深めていきたいと思った。
- 障害者がどのような困りごとを抱えているのか等知るためには、関わりを持たないと分からない。関わることで関心が持てるようになる。
- 声をかけあえる関係を築くことが大切。地域内で一人一人が見守り、支えあいを意識することで多くの人を救うことができる。
- 誰もがあたたかく受け入れられる地域になるといい。

- ・障害者はどうしても地域に受け入れられづらい。まずは障害者と関わる機会をもつことが大切。障害者も健常者も当たり前のことが当たり前ができる、そんな地域にしていきたい。

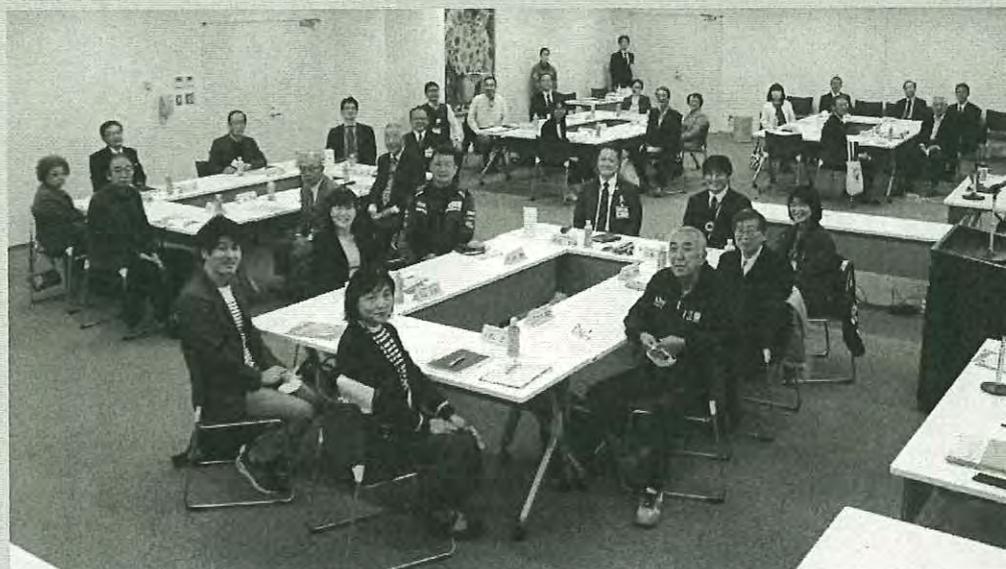
◆まとめ 栗原区長



皆さん自身で自分の住む地域をどうしていくか、活発な議論、感想や貴重なご意見をいただきました。

港南区で進める「協働による地域づくり」は、地域の皆さんが主人公です。行政はつなぎ役としてどうやったら実現できるかを考えています。区として今日いただいたご提案の実現など、協働による地域づくり、住みやすい港南区を実現していきます。

### 当日の様子



## 山下ふ頭再開発に係る意見募集への協力について

令和 4 年 11 月 22 日から添付のリーフレット等により、市民意見募集を開始しましたので、応募のご協力をお願い申し上げます。

### 1 意見募集の概要

前回の市民意見募集等の結果を踏まえ、より具体的な再開発のイメージや導入機能などについて、ご意見を伺います。

### 2 募集期間

令和 4 年 11 月 22 日（火）から 5 年 2 月 28 日（火）まで

### 3 応募方法

- (1) リーフレット付属はがき
- (2) インターネット入力フォーム
  - ・スマートフォン：QRコードからアクセス
  - ・パソコン：市（港湾局）のホームページからアクセス

### 4 リーフレット配布場所

- (1) 市民情報センター（市庁舎 3 階）
- (2) 18 区役所広報相談係
- (3) 主要鉄道駅、各図書館及び各行政サービスコーナーの PR ボックス
- (4) 青少年地域活動拠点

### 5 今後の進め方

令和 12 年頃（2030 年頃）の山下ふ頭再開発の供用を目標とし、次のとおり進めますが、詳細なスケジュールは今後の検討の中で設定していきます。

令和 4 年 11 月 22 日 市民意見募集等の開始（令和 5 年 2 月 28 日まで）

令和 5 年春頃～ 地域の関係者や有識者等からなる委員会の設置、  
新たな事業計画策定、事業者募集、事業予定者決定

令和 8 年度頃 山下ふ頭再開発事業化

担当：港湾局山下ふ頭再開発調整課 小島、大脇

Tel 045-671-7315

# 山下ふ頭の再開発 についてご意見を 募集します

—募集期間—

令和4年**11月22日**(火)～

5年**2月28日**(火)

新たな事業計画策定に向けて、  
（横浜市民の方をはじめ、  
市外在住の方や  
企業・団体等の皆様も）  
ご意見をお聞かせください

前回の市民意見募集では、「市民意見を反映し、その結果（地元経済活性化、賑わい創出などの視点・機能等）を踏まえて、広く民間から提案募集をするべき」とのご意見を多くいただきました。そこで、市民意見募集等の結果を踏まえ、改めて横浜市内の法人（企業・団体等）の皆様から新たな提案の募集を行います。

一方、市民の皆様からも、既にいただいた市民意見や企業・団体等からの提案を踏まえて、より具体的な再開発のイメージや導入機能などを伺うため、改めて市民意見募集や意見交換会を行います。

いただいたご意見やご提案は、今後の計画の検討に活用していきます。

横浜市港湾局





# 3

## 事業者提案募集の結果概要

いただいた**10件の提案**のうち、事業者の承諾を得たものを掲載します。

### 企業・大学等のイノベーション施設を中心とした提案



- キャンパス型オフィス 93万㎡ グローバル企業、研究機関、大学等
- 中長期型滞在施設 16万㎡ サービスアパートメント、スポーツ・医療ツーリズム、研修施設、研究者用滞在施設等
- 複合集客施設 6万㎡ ホール・シアター、ミュージアム、フードホール、エンターテインメント施設
- リゾート型滞在施設 5万㎡(200~300室)
- 賑わい施設 4万㎡ 商業、飲食等

### 大規模集客施設を中心とした提案



- 国際展示場 25万㎡
- コンサート・イベント会場 (7~8万人収容)
- SDGs・水素エネルギー施設
- その他施設  
次世代中長期滞在型宿泊施設(7,000~10,000室)  
植物工場・生鮮食料品市場・レストラン、  
給食センター、F1、医療防災拠点、教育施設



- マルチアリーナ 12万㎡ スポーツ、コンサート、コンベンション等
- ホテル 28万㎡ (3,500室)
- 商業施設等 13万㎡
- 展示場・会議室 10万㎡
- 客船ターミナル 1万㎡
- エネルギー施設 1万㎡
- 歩行者デッキ 14万㎡

### 緑を中心とした提案



- 緑 28万㎡
- 水素発電・浄化システム 7万㎡
- 滞在・研修施設 9万㎡
- 運動・健康施設 4万㎡
- 水際線プロムナード 3万㎡
- 客船ターミナル 5万㎡
- 生態館 2万㎡



- (検討例)
- エンターテインメント施設  
海上一体型半屋外シアター、水上ステージ、全天候型プール等、フードマーケット
  - 文化芸術施設  
メディア芸術(デジタルアート)、グローバル拠点施設
  - 研究施設  
海洋リサーチパーク、水産ガストロノミーセンター

**開発の効果** ※提案のあったデータの範囲のみを掲載

投資見込み額	年間延べ来街者数	雇用者数
約1,000~8,000億円	約530~4,500万人	約2.5~12.6万人

### 開発に関する主なご意見等

- 埠頭内だけでなく、周辺地区の開発促進やアクセス強化も必要である。
- 段階的な開発の考え方も導入する必要がある。
- 整備における公民の役割分担の協議や行政による支援をお願いしたい。

**事業者提案募集等の結果の詳細** 右のQRコードからホームページにてご覧いただけます。





# 山下ふ頭の概要・立地について

## 概要

昭和30～40年代の高度成長期に横浜港を支える主力ふ頭として重要な役割を果たしました。

現在は、本牧ふ頭、南本牧ふ頭等でコンテナ船へ積み卸すコンテナの開梱・梱包などを行うバックヤードとしての役割を担っています。

## 立地



## 山下ふ頭の特長

約47haに及ぶ  
広大な開発空間

周囲を囲む  
穏やかな水域

高い交通利便性

横浜港の  
良好な景観

周辺の観光資源

## 計画地のスケール比較



出典：横浜市山下ふ頭開発基本計画（平成27年9月策定）

✂切り取り線✂

郵便はがき

料金受取人払郵便

横浜港局  
承認

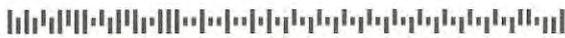
8459

差出有効期間  
令和5年2月  
28日まで  
(切手不要)

2 3 1 - 8 7 9 0

0 0 5

神奈川県横浜市中区本町  
6丁目50番地の10  
横浜市港湾局 山下ふ頭再開発調整課 行



該当する項目にチェックをお願いします

【住所】  横浜市  区

横浜市外

【年代】  ~10歳代  20歳代

30歳代  40歳代

50歳代  60歳代

70歳代  80歳代~

ご協力ありがとうございました

## 応募方法

次の方法で、ご意見をお寄せください。

①はがき(左のはがきを切り取り、ご使用ください。)

【切手不要 当日消印有効】

②インターネット入力フォーム

スマートフォンで回答される方

右のQRコードからアクセスできます。

PCで回答される方

下記のURLよりアクセスできます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/yokohamako/kkihon/keikaku/yamashita/joi/aratanatorikumi/iken.html>



- 「お電話やご来庁でのご意見の受付」および「ご意見への個別の回答」はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
- ご意見の提出に伴い取得した個人情報は「横浜市個人情報の保護に関する条例」の規定に従い適正に管理し、ご意見の内容に不明な点があった場合等の連絡・確認の目的に限って利用します。
- いただいたご意見は、公表させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課  
令和4年11月作成

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10

電話番号:045-671-4686 FAX番号:045-550-4961

メールアドレス kw-yamashita@city.yokohama.jp